

軍不然丁時報

議會解散の眞意義

(一)

議會最終日に當つて衆議院が解散された。解散に關して廿一日の公民館ニユウスは、今回引引ぶる解散は在来の常議的解散政論を以てして到底理解し難いものである。、と述べてゐるが、その直接原因と云つたのは、選挙法改正案で、政民両党が真正選挙を汚した選挙違反者救済せんがため、同案の通過を政府に強要し、重要法案の審議を停頓せしめるに至つたので、政府は政党的反省を求め、意味に於て解散を行つた。此の選挙法改正案の如何なる内容を持つたものであるか、廿一日のハブス電報によると、同案通過の際には選挙違反によつて就中中の三、百人及び罰金刑の二万人が有さるる事にある、と云つて、真正選挙の效果は皆無とある事を意味してゐる。而して政民両党は政府が同案通過を肯定するならば、政民と政府の重要提案に賛成しようとする取引条件を出したとのらしく、社大党が、既成政党的の議院要求が此の解散を招来する直接原因であつて、と指摘してゐるのは、此れを指してゐるのである。

(二)

野黨互合を予算案が通過した今日、その必要に應ずるは、その一面に於て、野黨の一方あるのみだと解散してしまつたのである。

(三)

野黨互合を予算案が通過した今日、その必要に應ずるは、その一面に於て、野黨の一方あるのみだと解散してしまつたのである。

野黨互合を予算案が通過した今日、その必要に應ずるは、その一面に於て、野黨の一方あるのみだと解散してしまつたのである。

野黨互合を予算案が通過した今日、その必要に應ずるは、その一面に於て、野黨の一方あるのみだと解散してしまつたのである。

野黨互合を予算案が通過した今日、その必要に應ずるは、その一面に於て、野黨の一方あるのみだと解散してしまつたのである。

ラプラタ丸  
四月四日入港 同十四日出帆  
大阪商船会社

懸賞募集

本紙亞細亞独立紀念号に精彩を發揮せんがため左記規定により原稿の懸賞募集を致します。健筆を振つて御投稿下さい。

論文

題 將來性ある邦人の卒業職業  
在邦邦人は將來如何なる卒業職業に就けば良いか、即ち邦人今後の新發展の進路を指示する羅針盤と云ふを得るもの。

賞金

一等一名 金五十ペソ 二等一名 美術彫刻品  
三等一名 本紙一ヶ月分無料調読券  
四等一名 本紙一ヶ月分無料調読券

校歌

四百字以内原稿同紙約十五枚

讀物

題 僕に百万ペソ當つたり  
桐畑隆寛、但し興味百パーセントの讀物とする

賞金

一等一名 金五十ペソ 二等一名 置時計  
三等一名 本紙一ヶ月分無料調読券  
四等一名 四百字以内原稿同紙約十五枚

詩歌

題 隨意  
但し亞細亞に於ける生活の可なり高きもの、詩は二十字以内

賞金

一等一名 金五十ペソ 二等一名 置時計  
三等一名 本紙一ヶ月分無料調読券  
四等一名 四百字以内原稿同紙約十五枚

婦女

以上論議讀物、短歌、詩、阿比、本月廿日迄、紙上の匿名は花文へかき、原稿一枚に邦字にて本名住所記の事、原稿は返却せず、選外佳作の発表権は本社に於ける保留す

以上は野黨的政治勢力を復得し得るに必要にして、野黨に於ける政府の支持を容易と云ふ道理である。此れを指してゐるのである。

？る迫成危の裂今党政

(東京廿一日) 政府は議會... 解散の理由を説明し、...

自覚ある新政党の出現と 総選挙に當つて政府は期待

が反政府勢力を煽... するとの上期待す...

國民に呼かけ今解散の特種意義... 互に團結すると見られる...

大社大の聲明... (東京廿一日) 社会大衆党... 聲明書を発表した...

既成の醜取引要求の... 此の解散の直接原因...

職を求む 若き日本人夫婦... マンダール及びコスツラ...

自動車譲りたし、機械完全... 現在厚中の二八年型トヨタ... 三〇〇km/hに達した...

衆議院解散

政府解散理由を發表

総選挙は来る四月廿日

(東京廿一日) 政府は廿一日衆議院を解散し其の理由... として左の如く發表した...

衆議院に解散を聲明する

(東京廿一日) 政民両... 党が多数を占め、憲法...

以て帝國憲法の本質を顯現する... の階梯たらしむると共に...

今も解散は無理由だ、政友会聲明發表

(東京廿一日) 解散に対し政友会... では安藤幹事長談の形式を以て...

此の解散の直接原因... 既成の醜取引要求の...

### 秩父宮同妃兩殿下 御恙無くロッキン山脈御通過

(カナダナショナル鉄道にて廿一日  
加藤副監督(乗務員) 秩父宮同  
妃兩殿下御召列車は月日く星の  
き南のフレザ、後谷まひたぶりに  
廿一日午前零時廿五分ホストンバ  
ーを通過したが、ロッキン山脈中の  
各山村より奉迎する同胞の表情を  
御涙み遊ばされてか沿線の諸駅に  
隨時停車した。一夜明け廿一日

外に現れる山々の風光を愛で給  
ふ。御召列車は午後三時十分、B  
C州とアルバータ州との境ある  
シヤスパー駅に到着、三十分停車  
一行は雷を分けてシヤスパー国立  
公園の山岳地帯をドライブ、兩殿  
下には山々の飽かぬ眺めに旅愁を  
流さぬ給ふた。

### 空の巨船を總動員して 一舉に東京大会を訪問 ツエッペリン航空会社の素晴らしい計画

(フリードリッヒ・ハーフェン 廿一日) 東京  
オリムピック大会を三年後に控へ  
ドイツ全国は果敢東京行きに熱  
中してゐるが、ツエッペリン航空会  
社では世界に誇る空の巨船を總  
動員してコンスタンツ湖の根拠地  
から一挙に東京大会を訪問、空  
から大会を支援する素晴らしい  
計画を進めて居る。

ベルリン大会の直後次は東京と決  
定するや、東京の早いベルリン子  
五十余名は早くもツエッペリン航空  
会社に出頭、一九四〇年東京大会  
行きの手配として了つたが、ツエッ  
ペリン航空会社ではこの豪華な申  
込みにも驚かず、東京大会迄は

#### 亜政連絡記録飛行に 朝日新聞の純國産機出発

(東京一日) 東京大阪兩朝日新聞並  
政務連絡記録飛行の純國産機、神尾  
号の命名式並に出発式は、一日午前  
十一時半から羽田飛行場同社格納

### 來る五日の地方長官會議 林首相政府の意向を高調

(東京一日) 政府は一日閣議に於て  
来る五日首相官邸に開かれる地方  
長官會議に於ける林首相の訓辭は  
つき協議の結果たの如き三英三骨  
子として政府の意向のあるところを  
高調する事は決定した。

一、今回解散の理由を説明して與に  
政府の意向のある所を國民に徹底  
せしめる努力を要する

一、純國産機の取締に際しては能近南  
正選挙の実定期とするに同時は今  
議會に於て人権蹂躪に對する  
非難の聲が高かつた事實に鑑み  
當局者としても反省する必要が  
幼學校で混合教育中

### 白米間の電送寫眞大成功 初「兩殿下」御安着の様

(東京一日) 秩父宮同妃兩殿下  
下バンククバー御安着の様  
眞が我が國産機で一日桑  
港のR.C.Aから太平洋  
期航空を利用し、三十一日午後一時半

は船内の兩殿下及び御下船の御様  
様を撮影申し上げ、直ちに汽車でシ  
ヤトル迄、シヤトルから桑港迄は定  
期航空を利用し、三十一日午後一時半

### スペイン内乱に 損害五百億ペセタ 死者二十万人に及ぶ

(パリ一日) 何時果しかるかの全  
く予断を許さぬスペイン内乱は  
勃発以來今日で既に三十八週目に  
入り革命軍、政府軍ともに起伏あ  
る持久戦に入つてあるが、この内  
乱による損害額一日約一億ペセ  
タと算せられ、今日迄即ち二百五  
十八日間に亘る戦争の損害は総計  
五百億ペセタに上り、又左戦死銃  
殺、空襲其他戦死によつて死者  
矢去市民の數約二十万人と算せ  
られ、今やスペインは全く國を奪つて  
戦禍の巻と化してゐる。

**KEROFIX**  
DEL Sr. ALEMAN (MARTIN)  
**M. SEITZ & Cia.**

EXPOSICION Y VENTA TALLERES  
DEFENSA 321 CHARCAS 4511  
M.T. 33, AVDA. 1529 L.T. 71 PALERMO 9008

プランチヤ機械カルテラ用  
のケマドリスデケロフキ製  
作販賣、修繕取付、交換、  
安價で引受けます

貴方はカーサホルカンに働  
いてゐるが、新製されたこの  
人で日本人諸君同様に敢て  
の顧客を有し、仕事は入念に  
速に致します。

電話にて御一報、次分券上致  
します

### 晴水の文化使節に

### 出発間際一寸待て

### 鳥居博士渡伯を中止か

博士は昨十一月名門同  
三月十三日神戸出帆  
かえのすあひ出帆す  
で麗島止りことらふ  
り、古代インナ帝國  
の文化の中東洋文

### 恥しき金のふい

のが國考古学の権威鳥居龍  
藏博士は初の輝く文化使節  
として外務省文化事業部の  
らブラジルへ派遣されるこ  
とになり、既に出帆の日取  
近決まつたが、経費難  
から又々、菊池部長の  
ニの舞を舞せしむる形勢  
を、各方面から指し  
てゐる、外務省では昨午伯國政府  
から文化使節派遣の交渉を受り  
人物銓衡の結果、富田やつと鳥居  
博士は白羽の矢を立て交渉の結果  
OK、ブラジル政府と連絡して

### 墨支國際愛の破綻

### 支那人を呪ふ涙の母子

### 七十人本國として船倉の旅

去る二月廿三日横浜出帆の墨支九  
國國際愛破綻の哀史を胸に抱め  
支那政府と支那入の夫を呪ふ泪の  
メキシコ母子七十名の母國へ返還  
された  
先年支那入労働者は米國移民法  
によりて多数米國及び支那より  
メキシコに渡航したが、彼等が

博士は昨十一月名門同  
三月十三日神戸出帆  
かえのすあひ出帆す  
で麗島止りことらふ  
り、古代インナ帝國  
の文化の中東洋文  
の文化の中東洋文  
の文化の中東洋文

### 最後の手段

墨支丸の一團はその先客を続  
て墨支丸を五十名の送還せしむる旨  
にありてゐる  
彼等が口から出る言葉は一概  
に夫の支那人に対する呪ひであつ  
た、この悲愴の母子等は墨支丸の  
三等船室とは云へ船倉の板を壁に  
隠れる様に固まつてゐたが、同船  
が寄港した大隈、神戸、四日市  
横濱等の各港では泪の母子航海を  
罵りて金や衣類を罵入るものも此の  
う日本入の痛に害んでゐた

### 銀幕に乗る

### 海を渡る日本

### 天の橋やど荒城の月



フィルムに乗りて海を  
渡る日本ニつ  
その一つは去る二月廿  
日、墨支丸がオホセ月の  
身で八重の月のウアイ  
オリオンを引いて出て日  
本青年會の会堂に於て  
新設、天才坊や、各古星帝國高  
等音樂院講師豊田善道子の一子新  
次君が  
に收まつてこの  
天才の縮刷版  
が海のアチラの本場をギヤント  
蒙の仕ると云ふのだ  
外務省情報部映画課の金子慶雄  
奈良  
と今や大きき第七位  
大佛  
續出するモダン大佛は  
内部に階段の展望台  
最近母國では全国的に大佛建立の  
流行とその費用と合算すれば一億  
円を突破する云ふ盛況、その第一  
位は福島縣下万葉山に建立せられた  
もので高さ百六十尺、当に奈良大  
佛の三倍と云ふ巨大なもので、皇紀  
二千六百年には向に合小様の目下  
工事を急ぎ、ある、年二位は百

### 奈良と今や大きき第七位大佛

續出するモダン大佛は  
内部に階段の展望台  
最近母國では全国的に大佛建立の  
流行とその費用と合算すれば一億  
円を突破する云ふ盛況、その第一  
位は福島縣下万葉山に建立せられた  
もので高さ百六十尺、当に奈良大  
佛の三倍と云ふ巨大なもので、皇紀  
二千六百年には向に合小様の目下  
工事を急ぎ、ある、年二位は百

### 林内閣々僚の横顔 (三)

## 内務大臣 河原田 吉楳

後藤文夫、潮見文輔、河原田吉楳と段々内務大臣の器量がナイ。河原田は近衛文麿の推挙に林内閣に入閣したのであるが、元来、河原田は養子で、その生家の奥村鹿有は先代近衛の家令であり、さか言ふらぶら近衛とは関係非常に深く、万一近衛内閣の場合、非難の的となつて、河原田は、河原田は養子だが、その生家の奥村鹿有は先代近衛の家令であり、さか言ふらぶら近衛とは関係非常に深く、万一近衛内閣の場合、非難の的となつて、河原田は、河原田は養子だが、その生家の奥村鹿有は先代近衛の家令であり、さか言ふらぶら近衛とは関係非常に深く、万一近衛内閣の場合、非難の的となつて、河原田は、

#### その経歴

河原田は養子で、その生家の奥村鹿有は先代近衛の家令であり、さか言ふらぶら近衛とは関係非常に深く、万一近衛内閣の場合、非難の的となつて、河原田は、

## 農務大臣 山崎 達之輔

小粋で脱離感の漂つてゐる山崎の中は、アブナ氣のあり大臣だとの評判を、福岡の薩三十八才、京大出で台湾の総督府に勤めた意外はずつと文部省にいた。普通学務局長の温床を離れて御用から立、農務大臣に就任した。山崎は先代内閣に入閣して政友会を離れ、内閣内閣と共

### 実直なる人間

現今学究的風味と持て居り、苦しい凡庸な文章と書く。彼の林内閣に於けるの地位は結

彼の林内閣に於けるの地位は結

彼の林内閣に於けるの地位は結

ACADEMIA DE BAILES  
**SARITA**  
CANGALLO 1279

★★アオデミア・サリタの舞踊場は擴張の次ぐ擴張！更に新しく多くのダンサーを採用致しました。シネマを併設し、パイロは毎日、バイロを演奏します。夜の夜ののんびり、タンゴのリズムに御座り下さい。

PROFESORA SARA MUÑOZ

ALMACEN  
**NISHIZAWA**

日本食料品輸入販売  
電話 万葉曲 一五八二  
西阪貴大商店  
市内アストリア街二一〇  
電話 三三二二一九

### 知恵山崎

山崎の知恵は、昭和六年一月、農務大臣に就任した。山崎は先代内閣に入閣して政友会を離れ、内閣内閣と共

# オリンピック競技場 武市郊外に建設か とてつもふい超豪華プラン

ナシオナリズムの隆盛の世界的風潮と  
共には国民体育向上の必要は各国民  
政府の痛感する処であり、スポーツ  
への大衆の興味逐年熾烈化し  
て行、今日、並國に於ても無多分  
に河津下体育向上、スポーツ道振  
興のために先般、倫林万国オリム  
ピック競技場の三倍に当らうと云  
ふ六百エーカーの大競技場をサ  
ンディロ、サンマルティン、サン  
チンの三部に圍まれた地帯に建  
設しやうと云ふ豪華プランが立  
案され、これが実現のため、同下  
五国オリムピック委員会、並國自  
動車クラブ、都市の友、等有力諸団  
体の協議によつて活動が続けられ  
てゐる。

**政府** としてもフスト大統領はカ  
ステイゲ内相を通じて一九三三  
年同方面関係者をうって一九三三  
の委員会の設置を命ずるに至ると  
いふ途に達してゐるが、去る廿  
七日エンリケ・ケヤノルディ工技師に  
よる設計及び模型が完成したの  
で、本月上旬フロリダ街のハロウ  
百貨店内に於て一般の観覧に供せ  
られることになつた。

**該案** の内容によれば、建設地帯  
は前記武市郊外で、鉄道三  
線通過の近矣、地價低廉といふ三  
好條件を備へてゐるもので、其處に  
Parque Cultural Olimpic  
Co.の名字をとり略して "Parco"  
ある諸種の綜合競技場は勿論、飛  
行場、飛行船繋留塔、円形劇場、  
会議用のホール等も併せて建設する  
一大運動場地帯を建設しようとい  
ふのであつて、其の  
**周圍** には十五キロをこゝ世界最  
長の自動車競走用道路  
をとりめぐらし、バルノ、真中には

## 和蘭から経済使節來亜 貿易促進会談既を開始

亞國、和蘭兩國間の通商関係の緊  
密化を計るために同下五國はとつ  
ては英米に次ぐ大顧客國であり昨  
年度の並國民輸入額約一億一千万ペ  
ソに上る和蘭から政府派遣の経  
済使節團が来亞してゐる。一行  
の團長ワンバルネベーク氏は三十  
一日、並國外務省及びフスト大統領を  
正式訪問、外務省に於て先づから兩國  
間の貿易促進のために會談が開始  
されてゐる。現在在蘭領中  
米極民地の對亞輸出年額は約三千  
九百万ペソ、本國は約三千二百萬ペソ  
で、對亞輸出國としての順位は夫

## 大衆のふところを訪れる 物價騰貴の冷たい秋風

物價騰貴の冷たい秋風が吹いてゐる。物價は昨今並國の大衆を悩ませ上り  
てゐる。「世界的景氣上昇と物價  
高騰の傾向、外資流入、世界市場に  
於ける穀物價上昇等々の影響を蒙  
り、切つて去る廿三日  
が三月廿九日には二ペ  
ソ十五仙と云ふ高騰が  
市内のパン商はこの二週間は小麦  
粉が一キロにつき六仙上つたからハ  
ンも五仙値上げして怒しいこの主  
張の下に値上げを決定するに至つた  
のだが一方パンは日常の要、労働

市内スレス街一三〇番 電話二一(パラス)〇八六九	中川商店																																								
<table border="1"> <tr><td>粳米</td><td>一五〇</td><td>糯米</td><td>一六〇</td></tr> <tr><td>秈米</td><td>一四〇</td><td>糯米</td><td>一五〇</td></tr> <tr><td>糙米</td><td>一三〇</td><td>糯米</td><td>一四〇</td></tr> <tr><td>碎米</td><td>一二〇</td><td>糯米</td><td>一三〇</td></tr> <tr><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td></tr> </table>	粳米	一五〇	糯米	一六〇	秈米	一四〇	糯米	一五〇	糙米	一三〇	糯米	一四〇	碎米	一二〇	糯米	一三〇	...	...	...	...	<table border="1"> <tr><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td></tr> <tr><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td></tr> <tr><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td></tr> <tr><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td></tr> <tr><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td></tr> </table>	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
粳米	一五〇	糯米	一六〇																																						
秈米	一四〇	糯米	一五〇																																						
糙米	一三〇	糯米	一四〇																																						
碎米	一二〇	糯米	一三〇																																						
...	...	...	...																																						
...	...	...	...																																						
...	...	...	...																																						
...	...	...	...																																						
...	...	...	...																																						
...	...	...	...																																						

### 時報直言

除疾いところで識会解散、  
春世でも枯れても流石はヘネラ  
ル林内閣、堪忍袋の緒も遂に切れ  
て、見事、傳家の宝刀を引ん抜いた  
と、脊負杖を喰つた政敵ども、今  
更千万言の逆事強べても後の祭、  
お次ぎにマアツシヨさん、松居候か。

### メンドサから出武せる 星清藏氏歓迎会開催さる 席上求められて同氏体験を語る

在星村人の大先輩として入会  
メンドサに於ける有数の大栗樹園  
管理者として多岐にわたる指導に  
尽力してゐる星清藏氏の出武を  
機に、吉川六郎、水野勉、西村が  
發起となり星村の今日迄多岐に  
及ぶ有志相寄り一昨一日午後八  
時より料亭十島に於て一又星氏  
歓迎会が開催された。出席者は主  
賓の外に高市、榛葉、鈴木、森川  
及川、佐伯、大田、松、片山、下保書  
記者、村田拓壽書記、吉川、久保  
田水野、中本、諸氏十六名、  
先づ吉川氏の歓迎の辞、星氏の謝  
辞、下保書記の挨拶あり、次に  
で中本勇氏同じメンドサ人として  
星氏の謝辞を述べた。星氏は星  
氏を中心として七十名の村人が家  
族的一寸類例のない植民地を形  
成、致々として相当長年月奮闘し  
つゝあるにも関わらず、発展の比較  
的目覚しからぬ果樹植民地とし  
てのメンドサの特異性を述べ、理  
在七ヶ敷の植民地は幸ひ星氏の指  
導を受けて発展を遂げてゐるが一  
般村人の発展を促進するには尚ほ積  
当年月を要する旨述べ、今後とも  
専横を希望する旨述べ、  
次いで吉川氏は伊藤清博士農場の印  
象と星氏農場の印象を比較して

語り、一九二六年時の公使古谷氏は  
よつてメンドサの話題が提供されて  
より早や十年余に及ぶが、その間入  
植者も少く、いかに星氏一人が成功さ  
れ他村人に未だ成功者なきは何故  
であろう、又今後の方策、村人の  
事業として武市近郊に於ける花井  
野栗園振興の途程に比し果樹栽培  
事業の発展が速く進まざる  
理由等、この機会に星氏交はしむが  
ら星氏から聴くことが出来れば好都合  
であるとの旨を述べ、星氏は一同  
に賛成、それより星氏は一同の  
意見を容れて今日迄進歩し、一度も  
公の席上で面を披瀝したこと  
の席上、あつた遠い過去からの  
体験談や感想、メンドサの現状等  
について徐に語り進めた。  
氏の体験談は先づ「私は人生の地  
理と云ふ本を讀んで考へさせられ  
た」といふ所から初まつて果樹  
初め果樹には相当固まつて居  
たこと、一九一六年頃の苗圃に於け  
る外人の果樹園経営方法、理論はか  
り、果樹の経営方法は欠陥あるを  
の当時見出したこと、又その時  
大蔵大臣が「オレはオレに於て十  
万歩の日本人植民地を作る計画があつたが  
それも計画は一頓座を来してしまつ  
た」といふ語つて今日のメンドサ  
ルベアールの果樹園の管理担当者  
として迎へられし星氏の経緯を詳細  
に述べ、氏の経営を位々右当時の  
「オレオレ」は僅か十八歩ばかり  
でしよ、鉄道運賃は七角七十五分  
もして居り同屋の契約条件も悪かつ  
たのに出武して成算を得ず、今日  
四百町歩完成園に達する努力も  
併せて語られ、アルベール大統領の  
谷公使との間に相談の進んだ日本人  
入植問題で最初五ヶ敷入植を見るた  
め五千ペソ借入の困難が起り、自分  
の同題で当時誤解を受けたもの  
なと語り、  
以前には何故日本人の入植を計  
らなかつたか、元來  
メンドサの労働者は今日主として明日  
の生計については無視するが、従つ  
て労働賃も非常に安く、この他  
の賃金は満足する日本人は少い、  
よみ比較的高級の労働者としての  
日本人の消化力といふものはあつた  
メンドサと云ふ所は安んずる力  
よつて事業経営が価値づけられる  
所であるから、労働の勤奮による  
星は今でも容易には云へない、然し  
近年は幸ひこの障害を克服してホ  
ク独立者が出て、賃調にまつて居る  
のは先づいふと語つた、(現在メ  
ンドサの賃金は収穫時は月給二百ペソ位に  
あつたが、今は月給三百ペソ位に  
あつた) 吉川氏のオレオレとメ  
ンドサの比較論があり、結局何  
れも村人発展のためには資金が先  
にたふされねばならぬ、日本政府は  
民の道はつけるが、後の事は知ら  
ないといふ従来の政策では駄目な  
こと、官憲筋への希望を述べ、下  
保書記の地方視察談や感想、村  
田書記のオレオレとメンドサ地  
の植民地としての入植論等が披瀝  
され、此の植民地の先人を迎ふる会  
果樹植民地建設問題の研究会と  
り盛会程に午前一時開会した。

### 明日開催される 日青の辯論大会 盛会は同連ひ無し

既報、在星日本青年会主催の  
辯論大会は念五明四日午後三時か  
ら日会々館に於て開催されるが、  
今日迄に新聞せる出演者は左の十  
二名に達し、前日密会に疑ひのこ  
らから明日の盛会は疑ひのこ  
らであらう、出演者は右の諸氏  
一 同胞よ平和の勝利を  
獲よ、 外向良馬  
一 散て徹せりとも幸高  
うかに叫ぶ、 姓名不詳  
一 英雄俗論と私見  
横尾、  
一 日本人の高き和はぶら文化  
的使命、 安生清勝  
一 其他題未定であるが、星吉平、佐藤  
藤田五夫、若山一雄、有永藤雄、島  
田、河村、宮田の諸氏  
右の審査員としては花田武官、

標葉賢雄、大城正雄、北川徳、高市  
茂、片山長平、塩沢長助、石川芳範、  
石川倉次郎、小川勇、安田敏雄、有  
水藤太郎、府内五郎、大野幹三、宮田  
政市、安永隆一、斎藤彦謙、加賀泉  
九平、新宅、新村、水野の諸氏が  
依頼を受けて居り、審査の結果青  
年会から一、三等は賞金を授けら  
るが、此外不志金の金メダルを授  
け、星時季、アララフ新報、熊本海協天  
許等から賞品寄贈の中込ある由。

### 御案内

辨答 益々御清祥之故奉慶賀  
候  
陳着来る四月四日(第一日曜)午  
前十時より「ルイスギヤン」に於て  
本校第三回運動会を挙行可致候  
同御来観の栄を辱度此御案内  
内申上候  
昭和十二年三月廿五日  
在星日本語小学校  
各位

日本座敷 建築  
文化住宅  
家具修理其他  
何卒御用命願ひます  
大工指物師 山本 玄  
An'ait Teyan 4817  
11. 8. 741 (Alameda) 3150

# ナチスは語る

## ・独逸の植民地要求は

### 純然たる経済問題

独逸の経済大臣兼中央銀行総  
 裁であるシヤハトはナチスにして  
 は常識家と見られてゐる。彼は例  
 の植民地返還の要求を米國、英  
 國「オレイン・アフォーヤス」一月号  
 で論じて日本のことにも書及して  
 る。日独協定が締結されて、日  
 本も独逸への何かの聲がかりがある  
 のだから、ナチスが何を語るか位は  
 知つておられるであらう。

シヤハトは云ふ。米國人は独逸  
 が植民地を有するが有らぬが米  
 國には何等の關係がないことだ  
 と思ふかも知れない。併し事實は  
 さうでない。独逸七千万の國民が  
 けからば世界の経済から分離して  
 も、それは大して世界の繁栄に影  
 響すまいが、東部歐洲の諸國は  
 独逸に農産物を賣つて生きて居る  
 独逸が没落すれば歐洲全体の経済  
 が衰微する。歐洲全体の衰微は米  
 國にも影響するだらう。

イルソンの提議した諸國協定十  
 ヶ條原則を基礎としてある。た  
 そろ五條には植民地の處分を政  
 府の場合には政府の公正なる要求  
 と、植民地の利益を考慮して決す  
 るとあつた。大統領の勸告者たり  
 しハウズ大法官はこの「公正なる要  
 求」といふ言葉に註釋を付けて、  
 獨逸の植民地を處分する場合に  
 は、獨逸が熱帯地方産出の原料  
 を必要とする。その人口の増  
 け口を必要とする。平和協定の  
 原則は獨逸の國境は征服したか  
 らといつて、獨逸の植民地を奪  
 権利はないことを意味すると云つ  
 た。英國も大戦の初めに於て獨逸  
 植民地を奪取を意図したと聲明した  
 これに反して、獨逸は「無視す  
 る」といふ時、米國も亦その大  
 統領の宣言を無視することは出来  
 ない。

一九一四年八月廿三日獨逸はその  
 敵國に向つて植民地を戦争の場外  
 に置くことを提議した。併し英仏  
 はそれを断つた。獨逸は植民地  
 地全体にある兵は其の數僅かに七  
 千、それは只だ警察の用に供す  
 るのみであつた。獨逸は植民地の  
 土着を戦争に動員しあつた。た  
 之に反して、フランスは五十万の  
 黒人兵を歐洲の戦場に出した。植  
 民地問題は獨逸にとつては純然と  
 經濟上の問題であつて、帝國主義  
 や軍國主義の向意ではない。獨逸  
 は植民地を失つた爲めに、その工  
 業を維持する爲めの原料品の缺乏  
 に苦んでゐる。歐洲大戦前には  
 世界の貿易が自由で、原料品はど  
 こからでも買へたものである。然  
 るに戦後は、各國共に經濟的鎖國  
 主義を採つたが爲に、それが出来  
 ない。世界の貿易は戦前の三分  
 一に萎縮した。その上に戦前、獨  
 逸の世界各地に投資した額は約百  
 廿億ドルであつた。その利子で原  
 料品を買へたものだが、此の投資  
 は戦争の結果、無償で没收されて  
 了つた。従つて原料品を買ふ金が  
 無いのである。

獨逸が自給自足を強迫して居  
 るやうに云ふ者があるが、それは  
 嘘だ。自給自足は文明の一般原則  
 である。それは世界から孤立す  
 ることにある。商品と交換が減少  
 すれば、知識の交換も自ら減する。  
 科學、藝術、文化を交換する方法  
 がなくなる。自給自足の原則によ  
 つて經濟を統制すれば、自然の結  
 果として精神的にも自給自足にな  
 る。そして國民の心が狭量になり  
 だ。國際關係は險惡になる。か  
 りだ。人類は今まで知識の交換  
 によつて進歩して来た。只だそ  
 れによつてのみ健全な發達が望  
 め得られるのである。

世界は國々を有する國と有らぬ  
 國とに分れる。此の頃英國  
 上院で或る議員は演説して、英國  
 は有する國、獨逸、伊太利、日本は  
 有らぬ國である。これら三國が  
 不安の狀態にあるのは不思議とす  
 るに足りない。英國は平和を愛す  
 る國だと云はれるが、英國はその  
 慾望を満たされてゐるから、平和  
 を愛するのには當然と云つた。こ  
 れで、不幸にして獨逸の今の状態  
 は日本や伊太利とは比較にあらぬ  
 い。日本や伊太利は純に現狀に不  
 満足な國ではない。彼等は有らぬ  
 國の列を離れて有る國の仲間にな  
 入つたのである。それ故に、獨逸  
 の人は平和を欲しあがり、今尚ほ  
 世界不安の原因とあつて居るの  
 だ。併し獨逸は平和を愛するが故  
 に、平和的手段で植民地問題を解  
 決し、そして他の國と同じ様に、  
 天啓り有る國の仲間入りが出来  
 ることを望んで居るのである。

以上がシヤハトの論旨の要旨で  
 あるが、日本では有らぬ國の仲  
 間として獨逸を挙げる。併し獨逸  
 は日本を有する國として見て  
 る。シヤハトが自給自足の經濟  
 を排斥し、人類進歩の道として文  
 化の國際交換を方説するのあたり  
 は、世のナチス信仰者達を失望  
 せしめるであらう。

大阪 貨物船着發

あらすか丸 入港四月十日 出帆四月十日

箱根山丸 入港四月十六日 出帆四月廿二日

白馬山丸 入港五月廿日 出帆五月八日

アランケツ丸 入港六月廿四日 出帆六月廿四日

大阪商船株式会社



Buenos Aires, sábado 3 de Abril de 1937

SECCION CASTELLANA

Dirección: USPALLATA 981 U. T. 23-7051

## A propósito del festival del Racing Club

La fiesta deportiva dedicada al Japón realizada en el Racing Club, de la que noticiamos en el número anterior de este periódico, por el significado que tiene, merece un comentario especial.

"Minkan Gaiko", es una frase moderna que está de moda en el Japón que significa "diplomacia popular", en oposición a la diplomacia oficial o protocolar, siendo fomentado por el gobierno y el pueblo la práctica de la misma, porque se trata de manifestación espontánea y sincera del pueblo, cuyo eco es más durable como edificante para el cultivo de la amistad de verdad.

El festival preparado por las autoridades del Racing Club en homenaje al Japón, a la que participaron con entusiasmo un millar de sus asociados, colmando de atenciones a los nipones especialmente invitados que concurrieron, ha sido una manifestación más de la franca simpatía del gran pueblo argentino el cual siempre ha demostrado y demuestra constantemente su amistad para con nuestro país, que nosotros reconocemos y agradecemos. Viene al caso recordar aquí las amables palabras del Dr. Carlos Saavedra Lamas, Ministro de Relaciones Exteriores, quien, con su acostumbrada lealtad, característica del caballero argentino, nos dijo en una ocasión: "Mi simpatía para con el Japón no es más que el reflejo del sentimiento nacional de la Argentina", cosa que nosotros comprobamos diariamente en contacto con este pueblo hospitalario.

La importancia del Racing Club es conocida por nuestros lectores. Es una institución renombrada de la Argentina, reconocida por propios y extraños, que hace honor al país. En Avellaneda que podría llamarse el Brooklyn de Buenos Aires, brilla por su acción social que enaltece a la ciudad ya famosa por los frigoríficos y empresas industriales con su Mercado Central de Frutos, que es el mercado más grande de lanas que posee el mundo. La casa del Racing Club es la casa de su juventud, el alma de la ciudad.

Contar con la amistad de esta simpática casa que reúne en su seno 17 mil asociados con sus familiares que pueden sumarse por lo menos otros 10 mil más, equivale poseer la amistad de la ciudad de Avellaneda, la principal de la provincia de Buenos Aires.

Al hacer resaltar esta prueba de la amistad argentina, deseamos que nuestros compatriotas tomen nota de ella, pues la nobleza argentina nos obliga un comportamiento correspondiente a su hospitalidad.

Entre los asociados del Club figuran algunos nipones, entre los cuales se distingue el señor S. Matsubara, quien, con su sociabilidad ha sabido captar la confianza de sus colegas que lo estiman, cuyo ejemplo hemos de recomendar para todos los residentes jóvenes.

La próxima inauguración del curso de Jiu-jitsu en el Racing Club que fué anunciada públicamente por el presidente de dicho Instituto, atraerá la atención general del país, proporcionando a numerosos argentinos la oportunidad de conocer algo característico del Japón.

### DISCURSO DE G. YOSHIO SHINYA

El señor G. Yoshio Shinya, agente de la Sociedad de Fomento de Cultura Internacional "Kokusai Bunka Shinkokai", presente en la fiesta en calidad de invitado especial, pronunció el siguiente discurso:

#### Amigos:

En el Japón se cultivan hoy toda clase de deportes modernos que vosotros conocéis, porque el pueblo nipón es aficionado al sport y, también, porque nos gusta tomar parte en los concursos internacionales para probar nuestra habilidad, ni nos falta el deseo, si es posible, de superar a los demás.

El deporte más popular del Japón actual lo constituye el Base-Ball, de origen norteamericano, que está tan arraigado allí como el Foot-Ball inglés en la Argentina. Sin contar los numerosos clubs atléticos y deportivos que abundan en todo el Imperio, todos los estudiantes, desde los pequeños de las escuelas elementales hasta los universitarios, que suman más de 13 millones, de los cuales 7 millones son varones, juegan o saben jugar el Base-Ball. El Golf, que no hace 15 años que se popularizó allí, está hoy tan desarrollado que el Japón ocupa el tercer lugar en el mundo en cuanto a la cantidad de links que posee, que pasan de 100.

Mas, el Japón no ha abandonado el cultivo de los deportes propios legados por sus antecesores. Figuran entre éstos el Kendo o esgrima de espada, y el Judo o Jiu-jitsu, la lucha peculiar del Japón.

El Kendo es semejante al sable. La posición del combatiente varía debido a la clase del arma que requiere ser manejada con ambas manos. La exhibición que presenciareis no necesitará de informaciones previas.

En cuanto al Judo — comunmente llamado: "lucha japonesa", — creo conveniente, para la mayoría de los presentes, ofrecer algunas explicaciones. Primeramente, porque existe otra lucha japonesa parecida a la romana, denominada "Sumo", que nada tiene que ver con el antiguo arte militar de defensa que es el Judo; en segundo lugar, por la importancia que se le concede en el Japón como elemento de cultura espiritual.

### JIUDO O JIUJITSU

El Judo, conocido más popularmente con su antiguo nombre: Jiu-jitsu, es un modo peculiar de luchar, original del Japón, cuyo conocimiento era considerado tan esencial como el manejo de la espada para la clase militar de la época feudal, el Samurai. Se trata de un arte de defensa propia sin arma, que está basado en el estudio anatómico, y difiere de la lucha común en que aquél utiliza la fuerza del oponente en provecho propio, mientras que ésta depende solamente de la fuerza de uno.

El Judo es una escuela moderna de Jiu-jitsu antiguo, adaptado a la nueva situación, metodizada la enseñanza y la forma de practicarlo, convertido como un arte deportivo, dándole, en fin, el carácter educacional de cultura física y espiritual a la vez.

En el extranjero sólo conocen el Jiu-jitsu o sea la parte técnica del arte, apreciada por su utilidad, ignorándose de los principios éticos sobre que se halla fundado ese arte, que, sin embargo, son para los nipones la parte más importante del mismo. Permídanme que os explique en pocas palabras la evolución del Jiu-jitsu y como ha nacido el Judo.

Jiu-jitsu fué practicado ampliamente por los Samurais en el siglo XII de la era Cristiana, llegando a un desarrollo y perfeccionamiento técnico conocidos en los siglos XVII a XIX, cuando hasta las damas aprendían algunas de sus tretas.

Pero con el advenimiento del nuevo régimen de gobierno que abolió la casta militar, que revolucionó la sociedad, hubo de traer, naturalmente, la decadencia de la práctica de todo arte militar y con él la de jiu-jitsu. Esto sucedió en 1868, año en que nació el Japón moderno.

Diez años después, el señor Jingo Kano — que después fundó la Institución del Judo moderno — iniciaba el aprendizaje del jiu-jitsu en la Universidad Imperial de Tokio, siendo uno de los estudiantes más aficionados a esa práctica, observando con atención las explicaciones del profesor. Espiritu observador, el joven Kano comprendió que Jiu-jitsu no sólo era un arte de defensa para la milicia, sino que contenía en su espíritu, principios de alta ética tradicional del Japón. Ansioso entonces de que tan precioso arte espiritual no sucumbiera con la modernización del país, estudió y organizó la Institución de enseñanza y práctica del mismo, introduciéndole algunas modificaciones, haciéndolo menos peligroso y adaptable como deporte, pero realizando los principios éticos que son su alma, según el código del Samurai: Sentimientos de honor, de respeto y de dignidad; nociones de justicia, cortesía, benevolencia y del deber humanitario; espíritu de valentía, serenidad, etc. Así nació el Judo con la fundación de la Institución llamada Kodokan en 1882, la cual continúa siendo dirigida hasta el día de hoy por el propio fundador, el famoso Jingo Kano, al que han visto los que concurrieron a la Olimpiada de Berlín.

Hoy su enseñanza y práctica están universalmente aceptadas en todo el Japón, especialmente en las escuelas y colegios. En las escuelas medias del Japón — equivalentes a los colegios nacionales de la Argentina — de los 350.000 varones que cursan sus estudios, 160.000 están inscriptos para ese ejercicio. En las Universidades e instituciones superiores, lo practican más con espíritu deportivo que por gimnasia, sin descuidar, por supuesto, la parte que concierne a la cultura espiritual.

El gobierno y pueblo del Japón reconocen la magna obra del señor Kano, atribuyéndole a la práctica del Judo la democratización de los principios éticos-morales del Samurai, que forma base de la grandeza de la Nación Japonesa.

El Japón ha venido cultivándose, pues, el ideal de la Olimpiada que vosotros sostenéis, desde la remota antigüedad.

Señores: Agradezco a las autoridades del Racing Club la oportunidad que me brinda para relacionarme con los numerosos socios de esta importante institución, adhiriéndome en la celebración del aniversario vuestro. Gracia.

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

Osaka Shosen Kaisha

Todos los miércoles a las 19 horas.

POR  RADIO EXCELSIOR

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

### ¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 o/o de azúcar brillantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

**CAFE DE SANTOS "AGUILA"**

ES UN PRODUCTO SAINT.

**DISOLUCION DE LA DIETA IMPERIAL**

TOKIO, marzo 30. — A pedido del Primer Ministro Hayashi, el Emperador ordenó la disolución de la Cámara de Representantes. Las elecciones generales se realizarán el 30 de abril próximo.

Se ha producido un serio pleito entre el gobierno y el Parlamento, en vísperas del receso de la Dieta, al negarse la Cámara a votar el proyecto de reformas electorales presentado por el Gabinete con carácter de urgencia.

**FUE DESCUBIERTO UN COMLOT EN MANCHURIA**

TOBIO, marzo 29 (United). — Infórmase que fueron arrestados en Hsin-King 200 funcionarios y comerciantes destacados manchukuos, y algunos ejecutados, por conspirar para derribar el gobierno del Manchukuo.

La agencia Domei informó que las investigaciones practicadas revelaron la existencia de una sociedad nacional de preservación, de Peiping, relacionada con el gobierno de Nankin, cuya finalidad era luchar contra los japoneses y manchukuos.

**AUMENTAN LAS COMPRAS JAPONESAS DE PRODUCTOS ARGENTINOS**

Las estadísticas oficiales del Japón revelan el aumento considerable de las compras que realiza el Japón en la Argentina.

Las importaciones de productos argentinos durante los dos primeros meses del presente año ascendieron a 6.604.484 Yen contra 3.547.240 del mismo período del año anterior.

En cambio, las exportaciones del Japón para la Argentina en los meses de enero y febrero, sumaron 3.735.673 Yens, resultando un saldo favorable para la Argentina de 2.868.811 Yens.

**ATENTADO CONTRA EL EMBAJADOR JAPONES EN MOSCU**

TOKIO, marzo 29. — El ministerio de relaciones exteriores anunció que un desconocido arrojó una piedra de gran tamaño en el domicilio del embajador japonés en Moscú.

Según informa la agencia Domei, la policía soviética detuvo un sujeto sospechoso que está afiliado en el partido comunista.

**TRATADO COMERCIAL JAPONES-PERUANO**

TOKIO, marzo 27 (Domei). — Ha sido concertado un tratado provisional entre Japón y el Perú, por el que se permitirá una entrada adicional de 150.000 kilogramos de tejidos de algodón de fabricación japonesa en el Perú.

**JAPON Y EL CALIBRE DE LOS CAÑONES**

TOKIO, marzo 27. — El Japón no aceptará la propuesta de Gran Bretaña de formar parte de un convenio con ella y los Estados Unidos para limitar el calibre de los cañones navales a 14 pulgadas, a menos que Gran Bretaña y los Estados Unidos convengan al mismo tiempo en reducir los tonelajes de sus respectivas marinas de guerra.

En los considerandos de la negativa el Japón manifiesta que no puede aceptar la limitación cualitativa fuera de la limitación del tonelaje global.

**VIAJE A EUROPA DEL MONOPLANO "KAMIKAZE"**

TOKIO, marzo 29. — Llegó ayer a Tokio, procedente de Osaka, el monoplano "Kamikaze" fabricado allí con materiales totalmente nacionales.

El aparato será bautizado el primero de mayo en el aeródromo de Haneda y saldrá para Europa el día 2 con los mensajes de amistad del diario Asahi-shimbun, esperando cubrir la distancia de 15.357 kilómetros en cuatro a cinco días.

El "Kamikaze" seguirá la siguiente ruta: Taihoku, Hanoi, Calcuta, Karachi, Bagdad, Atenas, Roma, París y Londres.

**ESTUDIANTES CHILENOS EN JAPON**

TOKIO, marzo 30. — Se encuentran en ésta un grupo de estudiantes chilenos que visitan el país.

**XII ASAMBLEA GENERAL ORDINARIA DE LA ASOCIACION JAPONESA EN LA ARGENTINA**

Llevóse a cabo el domingo 28 de marzo, en su local de la calle Patagones, la XII Asamblea General Ordinaria de la Asociación Japonesa en la Argentina.

Aprobados unánimemente la Memoria y Balance del ejercicio vencido, fué practicada la elección de las autoridades correspondientes para el año actual. Fueron electos vocales, los señores: S. Takaiehi, M. Miyata, H. Saitó, K. Suzuki, S. Shiwozawa, T. Arimidzu, R. Katayama, Y. Nakamura, K. Gashú, M. Oshiro, S. Oikawa, K. Nishisaka y R. Sakima. Síndicos: señores K. Anno y S. Honda.

<p><b>"NAMBEI"</b> Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 SARMIENTO 470 BUENOS AIRES</p>	<p><b>A. HANAFUSA</b> Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 33-5469</p>	<p><b>F. KANEMATSU y Cía. Ltda.</b> Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p><b>S. TSUJI</b> Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p><b>K. ANNO</b> The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4031</p>	<p><b>S. YAMADA y Cía.</b> Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405</p>	<p><b>PIDA SIEMPRE</b> <b>Marca KANEBO</b> PARA TEJIDOS Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989 U. T. 35-7632 8.º piso Oficina D</p>	<p><b>LA MAISON SATUMA</b> Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 44-4392 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p><b>H. KATO</b> Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1941</p>	<p><b>IIDA y Cía. Ltda.</b> (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419</p>	<p><b>M. OMURA</b> Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 33-2683</p>	<p><b>Sastrería JAPONESA</b> Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452</p>
<p><b>SADAO HATTORI</b> IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P</p>	<p><b>R. HARA y Cía.</b> Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9437</p>	<p><b>S. ANDO y Cía.</b> Importadores BERNARDO DE IRIGOYEN 143 U. T. Mayo 38-1402</p>	<p><b>GUIA JAPONESA</b> LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. — U. T. 31-3193. CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193.</p>
<p><b>KATSUDA y Cía.</b> Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2313</p>	<p><b>CARLOS C. ISHIY</b> Importador y Exportador Bm. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>	<p><b>JIRO HONDA y Hno.</b> Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p>CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. — U. T. 33-1452. INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.</p>
<p><b>B. TAKINAMI</b> Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-3413</p>	<p><b>S. YOKOBORI</b> Representante de FUJISAKI y Cía. CANGALLO 499 3er. Piso Escri. N.º 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p><b>Casa "YAMANAKA"</b> Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p>	<p>ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. — U. T. 23-4893. COMPAÑIA DE VAPORES O. S. K.: Cangallo 462. — U. T. 33-1051 y 1052.</p>
<p><b>I. HIROTA</b> Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1051</p>	<p><b>TARO MURAI</b> Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-3189</p>	<p><b>K. YASUNAGA</b> Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 - U. T. 33-7769</p>	